

風土記の丘の花だより¹⁴⁷

今、そしてこれから見られる植物(2022年8月13日)

言ったところでどうにもなりません、暑くて暑くてたまりませんね。連日の猛暑、草木は水不足で萎えてしまっています。私も体ばかりか、気まで萎えてしまいそうです。お互い、無理をしない程度に外歩きを楽しみましょう。



今年はたくさんウバユリが咲きました。船屋と谷山家辺りの南の斜面です。このユリは他のユリと比べてガッシリしていて、少々の雨や風では倒れません。同時に咲いているタカサゴユリは自分の花の重みで倒れる事もありますが、ウバユリは大きな花を数輪付けてもシャンとして、「ウバ」という名前に反してまっすぐ立っています。



「夏の花と言えば・・・」と問われると思えば、夏の花の一つにサルスベリがあります。レースが縮れたような花びらで、漢字では百日紅と書くのに、紅色や白色など様々な品種があります。谷山家の庭に咲いているミソハギと同じ仲間です。花序の先の方の丸いものはツボミです。花の後にできる実も同じく丸いのでツボミと実を勘違いすることもよくあります。幹がツルツルなので、木登り上手なサルでも滑るという面白い名前ですね。



万葉植物園などでナツフジが咲いています。名前のお通り、フジのような花が夏に咲きます。花の色は淡黄色で房も小さいです。他の木などに巻き付くので、植木の世話をするときには、目のかたきのように引きちぎられることの多い植物です。花はそれなりにきれいなのにかわいそうですね。



最後は花らしくない花、ハッキリいって華やかさに欠ける花です。先の細長いのがヤブマオの花です。まるでシソのような大きな葉ですが、まったく違うイラクサ科という仲間の草です。マオとは繊維が採れるカラムシという植物のことで、藪に生えるのでこんな名前が付いています。

松下